

「大塚漢文学会」から「中国文化学会」へ

会長 高橋 均

本学会の前身である「東京文理科大学漢文学会」が発足したのは一九三二年（昭和七年）で、以来、「東京教育大学漢文学会」（一九五三年）、「大塚漢文学会」（一九七九年）と、学会としての活動を継続しえたことは、この長い時間、その折々に本学会に参加し支えた会員すべての努力の賜物である。この点に、現会員の一人として感謝を捧げるものである。

歴史的に繋がりを持つ「漢文学会」ではあるが、「東京文理科大学漢文学会」「東京教育大学漢文学会」は、学会の名称が示すように、その学科の教官スタッフと卒業生・学生とで構成されている、いわば学科と連動する学会であった。学会は、同窓会要素を強くもち、そうした要素と学問研究が渾然として一体となり、それが特色であり魅力であった。だが東京教育大学の閉学は「学会」が従来有形で存在することを困難なものとした。そうした状況のもとで会員の衆知を合わせて発足したのが「大塚漢文学会」であった。「大塚漢文学会」は特定の大学と連動するものではなくなり、会員は任意参加とし、「漢文学及び漢文教育の研究と普及」に志すすべての人の参加を求める学会へと改められ、新しい出発をした。以来二十年に近い。会員も大学の枠をこえて次第に増加し、学会誌の発行、研究会の開催など学会として活動を継続しえてきたことは、会員の一人

人一人がなんとしてもこの学会を存続させようと努めた結果であらう。とりわけ筑波大学のスタッフには、学会の事務処理ひとつを取り上げても頼るところが大きい。有り難いことである。

このように、「大塚漢文学会」は、「東京教育大学漢文学会」を母体として、開かれた学会として出発したが、二十年を経過し、活動する中でさまざまな問題が生じてきた。

一九九三年に新たに学会委員長に就任された伊藤虎丸氏は、その就任のあいさつで、学会としての活性化を訴えられた。それをうけて委員会は、委員長を中心として、学会発展のためにその性格・活動方針・学会名称・会則・会誌名などについての具体的検討を始めた。その検討の結果は、一九九六年六月の総会にむけての中間報告「大塚漢文学会会則変更案」としてまとめられ、全会員への周知が図られ、あわせてアンケートによって会員の意思の取り纏めを試みた。こうして伊藤委員長の提案から四年の歳月をかけた討議を経て、一九九七年六月の総会に「大塚漢文学会会則変更案」が正式に提案され、承認された。そして、その会則に則り「大塚漢文学会」は「中国文化学会」と名称が変更され、新しい会則のもとでの活動の第一歩が始まった。

この会則を検討する委員会討議のなかで、最も多くの時間をついやしたのが学会名称と学会の目的であった。幾つかの学会名称が提案され、学会の目的の項は数回にわたり書き改められた。そうして選ばれたのが「中国文化学会」という名称であり、「中国文化及び漢文学の研究とそれに基づく教育への寄与」という目的である。

今、「中国文化学会」は、その会報を「中国文化」第五六号とし

て刊行し、新しい出発をする。これを契機として、六十有余年にわたる先進たちが作り上げた良き伝統を受け継いで、従来にもましてより活発な、より高いレベルでの学会活動を目指すものである。

なお付言すれば、本学会は一九九六年に、すでに当時の名称「大塚漢文学会」として日本学術会議より学術研究団体（語学・文学）として登録が認められている。これは本学会が公的な学会として認められたことであり、「中国文化学会」と名称を変更した今後も、その学会活動に様々な側面で益するところ大であると思われる。

(一九九八年五月四日)

学会 彙 報

○平成九年度大塚漢文学会大会

六月二十八日(土)

於 湯島聖堂

〔研究発表〕

一、『帛書周易』『易伝』について

—「易之義」を中心に—

筑波大学大学院 辛 賢氏

一、『賢』からみた馬王堆帛書「経法」「十六経」「称」「道原」

の成立—先秦諸子との比較から

筑波大学大学院 渡辺 大氏

一、海南閩語の「訓読」と「文白異読」について

文教大学 村上 之伸氏

一、『左伝』に見られるいくつかの他動詞アスペクト現象

一、史伝教材の指導—複教教材の活用

早稲田大学 杉田 泰史氏

一、論語の学習と自己学習力育成

筑波技術短期大学 細谷美代子氏

〔漢文教育シンポジウム〕

常葉学園大学 鈴木 嘉弘氏

陶淵明「飲酒」詩をめぐって

司会 茨城大 上田 武氏

問題提起者 沼津城北高校 安立 典世氏

筑波大学 堀池 信夫氏

青山学院大学 大上 正美氏

文教大学 沼口 勝氏

〔総会〕

一、開会の辞

田部井委員

二、議長選出 佐々木良氏を議長に選出

三、委員長挨拶 伊藤委員長

四、諸報告

(1) 庶務 向島委員

(2) 企画 宮内委員

(3) 会報編集 高橋委員

五、議事

(1) 平成八年度決算 大塚委員

(2) 会則変更について

委員会案が承認された